〒602-8580 京都市上京区新町上立売西入ル西大路町 61-1
TEL075-251-3185 © 同志社大学体育会機関紙
Doshisha Sports アトム
令和７年（2025） 新入生歓迎号
04/01 火曜日
http://doshisha-atom.net/
発行人 北原礼菜
編集人 矢部彩香

２面 居合道他
３面 ボウリング他
４面 ビギナー特集
５面 新歓広告
裏面 東山玲士選手 特別インタビュー

入学おめでとう！

感謝を胸に再起

同志社アトム
想い繋ぎ旋風巻き起こせ

アメフト 1部昇格

◆12月14日◆2024年関西学生アメリカンフットボールリーグDiv.1―2入れ替え戦◆対阪大◆於・たけびしスタジアム京都◆1部昇格を懸けた阪大との一戦で白星を挙げた。永田（経卒）がFG（フィールドゴール）で先制すると、ワイルドローバーは勢いを加速させる。堅固なオフェンスラインが道をつくり、佐々木康のパスを軸に次々とオフェンス陣がエンドゾーンへ。ディフェンス陣も相手をねじ伏せる強烈なタックル、福本（法卒）のインターセプトで会場を沸かせた。命運を分ける戦いで計8TD（タッチダウン）、2FGと阪大を圧倒。秋季リーグ戦2部王者の威厳を示し、佐々木康組は有終の美を飾った。

軌跡

自動降格から2年がたった。2023年度は部を立て直しながら再興を図るも、悔し涙に暮れる。「今年こそ1部に上がりたい」と部員全員が執念を燃やす。チームに向かい風が吹く中、さらなるレベルアップのために奔走する日々を送った。

努力が実を結び、昨年9月から始まったリーグ戦では負けなし。他大学を圧倒し、堂々と入れ替え戦への切符をつかんだ。佐々木康率いるワイルドローバーは、暗闇から光を見いだそうとしていた。

歓喜

雨上がりの空の下、行われた入れ替え戦。阪大を58―26で下し、ついに昇格を果たした。「この1年間やってきたことが報われた」（佐々木康）。過酷な試練を乗り越えた戦士たちの表情は、喜びと誇りで満ちあふれていた。

攻撃の指揮を執ったのは不動のQB・佐々木康。序盤から巧みなボールコントロールで試合のリズムを掌握し、要所で立て続けにパスを通す。日々の練習で培ったレシーバー陣との連係を存分に発揮した。さらにランで久場が圧倒的な存在感を放つ。持ち前の走力を生かし、合計131ヤードを縦横無尽に駆け抜けた。「オフェンスラインが最後まで頑張ってくれた」（久場）。その言葉通り、ランナーの活躍の裏には正面衝突もいとわないオフェンスラインの奮闘があった。力を結集し計8TD、2FGを獲得。終了のホイッスルが鳴り響くまで戦い抜いた。

一方のディフェンス陣も息をのむプレーを繰り広げた。第2Q（クオーター）に福本が相手の意表を突くインターセプトを成功させ、会場のボルテージは最高潮に達する。また、試合を通して濱野も力強いタックルで相手の攻撃を封じ込めた。彼らがスポットライトを浴びることは多くない。だが、隙を与えない堅守でリードを維持。チームに栄冠をもたらした。

選手、裏方ともに一丸となり、シーズン最多の58得点を記録。佐々木康組は晴れやかな笑顔で終幕を迎えた。

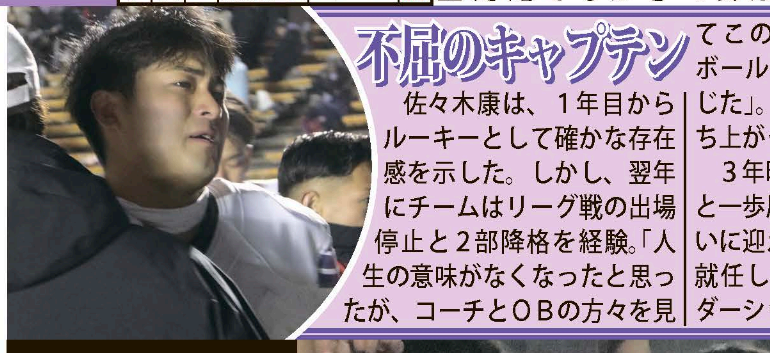
飛翔

「自信を持って、日本一という目標を声高らかに掲げて暴れてほしい」（久場）。4年生は来季への強固な土台を築き、ユニホームを脱いだ。

竹島（政策4）を主将に据え、新生アメリカンフットボール部は始動する。今年度のスローガンは『ＰＲＯＶＥ』。竹島は「3年間やってきたことを証明する」と自らを奮い立たせた。彼らにとって1部への返り咲きは、通過点に過ぎない。これから待ち受ける挑戦の道のりにも困難はつきものだろう。それでも乗り越えて証明してくれ。俺たちのフットボールが1番だと。【益野瑛真】

◆同志社の秋季リーグ戦績◆

節	月	日	対戦校	スコア	結
1	9	7	京産大	17―7	勝
2	9	22	大体大	30―0	勝
3	10	5	追手門学院大	34―0	勝
4	10	20	兵庫県立大	44―0	勝
5	11	3	甲南大	14―14	分
6	11	16	龍谷大	35―21	勝
7	11	30	大阪公立大	28―3	勝



不屈のキャプテン

佐々木康は、1年目からルーキーとして確かな存在感を示した。しかし、翌年にチームはリーグ戦の出場停止と2部降格を経験。「人生の意味がなくなったと思ったが、コーチとＯＢの方々を見てこの人たちのためにフットボールをしないといけないと感じた」。恩返しのために、再び立ち上がった。

3年時も試合に出場するが、あと一歩届かず2部にとどまる。ついに迎えたラストイヤー。主将に就任した佐々木康が抜群のリーダーシップを発揮し、リーグを制覇する。最後まで司令塔として力を尽くし、1部昇格に導いた。

全てをささげた4年間。彼が日本一への道を切り開いた。「チームが目指しているのは間違いなく日本一であり、それを実現できるメンバーはそろっていると思う」。つながれた夢は、後輩たちに託される。

VALUABLE PLAYER

主将・佐々木康成が選んだ！

RB 小林樹生
#83 1TD

WR 吉森圭汰
#81 1TD

RB 内藤壮真
#32 2TD

RB 久場俊慶
#26 2TD

先制点獲得
10-0
点差広げた
25-7
一進一退
32-14
4TD追加！
WIN!

歓喜する選手たち
【切り込み写真】
左・涙する佐々木康（商卒）
右・（左から）久場（法卒）、濱野（商卒）
（撮影・沼野涼音）

歩んできた道のり

入れ替え戦までに歩んできた道のりは険しいものだった。２０２２年、不祥事により２部に降格する。翌年は３位に終わるも、「日本一の取り組み」を掲げ新体制で再出発。巧みな戦術と圧巻のプレーで無敗優勝を果たし、強さを証明した。ハイレベルな戦いが待ち受ける今季、目指すのは日本一。夢をかなえるその日まで、ワイルドローバーは走り続ける。

入れ替え戦@たけびしスタジアム京都	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
同志社大学 WILD ROVER	10	15	7	26	58
大阪大学 TRIDENTS	0	7	7	12	26

レイアウト 河村柚希

夏炉冬扇

▼「大学生活は人生の夏休み」という言葉を耳にしたことがあるだろう。可能性は無限大だと説く大人に、いつも心の中で反論していた。何かを決断するにはまだ未熟で、何かを諦めるには早すぎる。それでも時間は有限で、手探りで答えを探し求める日々。悩み、苦しみ、焦燥感に駆られる度に不安で押しつぶされそうだ。でも実は選んだ道を正解にする。ただそれに尽きるのかもしれない。大切なのは選んだ道をどう生きるか。人生なんて死ぬまでの暇つぶしだと考えることで救いを見出していたあの日の自分に教えてあげたい▼秋晴れの空の下、私はソフトボール部女子のリーグ最終戦を取材した。4年生にとって大学生活最後の試合。仲間と共にプレーする喜びを噛み締める選手たちの姿があった。3回裏、左越え二塁打を契機に先制点を獲得。全員がグラウンドに立ち、リードを守り切ってチームは勝利を手にした。試合後メンバーや家族に感謝の言葉を綴り、涙ぐむ選手たちの姿をただファインダー越しに見つめる。儚く過ぎ去るこの瞬間が永遠になるようにシャッターを切った▼同志社は今年、創立150周年を迎える。新島襄は「大学の完成には200年かかる」と述べた。私たちが今いるこの学び舎の輝かしい未来に向けて、同志社スポーツに携わる一人ひとりが誇りを持って燦爛と挑戦する姿を次世代に継承し、志の輪を広げたいと切に願う▼「頑張れ」という言葉でさえ、耳を塞ぎたくなる日もある。周囲に求められていることに応えるのは二の次で良い。時には立ち止まり、心に刻んだ痛みを力に変えて。未来は自分で切り開こう。【岡本和香】

医療法人社団 石鎚会
Medical Corporation Sekitetsukai
YOUR Life Station
救急告示病院・臨床研修協力病院
京都田辺中央病院
TEL 0774-63-1111
石鎚会は同志社アスリートを応援しています！
毎週火曜日の整形外科外来は、
同志社大学スポーツ健康科学部教授
北條 達也先生が
診察を担当されています。
〒610-0334
京都府京田辺市田辺中央六丁目1-6
（近鉄新田辺駅から徒歩2分 JR京田辺駅から徒歩3分）
https://www.sekitetsukai.kyoto
石鎚会のInstagramはこちら
石鎚会グループの魅力や情報を
発信しております。

速報
企画
号外
随時更新中！
同志社の"なう"をつぶやきます！
@atom_doshisha

DUS since 1924
Doshisha University Swimming 水泳部
マネージャー募集中！
活動日
月曜～土曜（シフト制）
連絡や質問は
インスタのDMへ！
最高にアツい
夏を過ごそう！
IG @dus.1924

大舞台で本領発揮
居合道部
連覇達成
圧倒的な強さで右に出る者なし

◆12月8日◆第39回全日本学生居合道大会◆於・龍谷大学深草キャンパス体育館（京都府）◆大学対抗戦の部で全国2連覇を果たした。日本中から集まった23チームが熾烈（しれつ）に競い合う。同志社は全神経を集中させた繊細な動作と沸々とみなぎる気迫で観客を魅了。他の追随を許さず勝利を挙げた。自由技と指定技を組み合わせた演武で正確性や美しさが評価される居合道。部を代表して計5名が道場に上がり、目指すべき「高貴な居合道」を体現した。

覇者

団体戦で最多15回の全国制覇を誇る同志社。今大会も強豪としての実力を大いに奮わせ、記録を更新した。

7月に行われた西日本選手権での優勝で、両大会制覇が期待された全日本の舞台。受け継がれる伝統を背負いながらも、堂々たる所作で国内屈指の精鋭たちを圧倒。24大会ぶりとなる連覇を果たした。

激闘

「絶対勝つため」の稽古を重ねた。「心臓や筋肉の内側から熱がジワジワと放射されるような温かさを常に感じていた」（白井・社卒）と、試合前から好戦的な面持ちで挑む。東西優勝枠として2回戦からの出場となり、初戦は神戸学院大と対戦した。先鋒の儘田から大将の安田まで1人残らず3―0と、怒涛（どとう）の快進撃を見せる。手堅く一つ一つの動作に集中しながらも、圧巻の演武で自信に満ちた幕開けとなった。3回戦は、同志社と肩を並べる戦績を誇る京大とのライバル対決。開始早々、儘田が団体戦初めての黒星を喫する。一時暗雲が立ち込めるも、次鋒の白井が神経を張り巡らせた丁寧な刀さばきで立て直す。続く3人はその勢いを味方につけ、激戦を勝ち抜いた。準決勝で対峙（たいじ）したのは立命大。京大に次ぐ勢いと実績を持ち、再び気の抜けない戦いとなった。「ありのままに戦うことができた」（白井）。ライバルの研ぎ澄まされた技術を前にたじろぐも、落ち着きを取り戻し4―1で白星を挙げる。

たどり着いた決勝では青学大と激突。会場全体が勝負の一戦を見守る。儘田の勝利を皮切りに、次鋒の荒川（経4）も3―0で制す。3番手で登場した中堅の木村（社3）が勝利の行方を握った。今年度主将を務める木村は、2年生ながらチームの代表に選出された期待の剣士だ。「とにかく審判に自分を見てほしいという強気な気持ちをもって挑んだ」（木村）。緊張した様子の木村だが集中力を切らさず場内を席巻し、頂点に立った。

4年生にとって学生生活を締めくくる集大成。長い歴史に新たな功績を残し、華々しい引退となった。白井は「居合道部を存続させること」と「部員にここが居場所だと思わせること」に尽力。己の技術の錬磨に励みながら、頼もしい姿を見せた。その背中を追う後輩たちは、3連覇に向けた鍛錬の日々が始まる。「等身大の自分で、名誉に恥じない演武をしたい」（安田）。次世代につながれた「王者同志社」としての威厳を堅持せよ。【髙橋舞衣】

剣を構える儘田
【切り込み写真】
演武する安田（文4）

高み目指す挑戦

◆10月20日◆第35回西日本学生居合道選手権大会◆於・京都大学総合体育館

「今大会で優勝し、全日本での圧倒的な活躍のためのアドバンテージにしたかった」。飽くなき向上心を持ち、競技と向き合ってきた儘田。しかし、西日本制覇を逃し不完全燃焼で会場を去った。

厳かな雰囲気の中、白熱した激闘を演じた。儘田は洗練された正確な動きで、ベスト4まで順調にトーナメントを勝ち進む。準決勝でも磨き上げられた技術を披露し、確実に指定技3本を決めた。さらに、周りを圧倒するような自由技も美しくこなす。「絶対に勝ったと思っていた」と確かな自信を得たが、結果は1―2でまさかの敗北。決勝戦へ進出することはできなかった。

「審判の方々や監督の講評を真摯（しんし）に受け止めて修正したい」。今回の敗戦からさまざまな課題を見いだした。日本一を達成するためにも、まだまだ歩みを止めることはない。目指すは頂点ただ一つ。居合道の発展のためにも、1人の剣士として心技体にさらなる磨きをかける。

◆儘田響希
（ままだ・ひびき）
2003年4月10日生まれ。神奈川県・川崎市立川崎高校出身。160㌢・53㌔。心理学部4年。

◆団体戦戦績◆

試合	対戦校	スコア	結
1回戦	／	／	／
2回戦	神戸学院大	5―0	勝
3回戦	京　大	4―1	勝
準決勝	立命大	4―1	勝
決勝	青学大	5―0	勝

ラグビー部

◆11月30日◆2024ムロオ関西大学ラグビーAリーグ◆第7節◆対摂南大◆於・東大阪市花園ラグビー場第2グラウンド

「絶対に勝つ」（寺北・スポ卒）と入れ替え戦回避を懸けた負けられない一戦。摂南大と対戦し、39―38で辛勝した。

前半2分、敵陣深くに攻め込むと肉弾戦で寺北が最前線を担い、先制点を奪取。互いに火花を散らし、終盤は緊迫した展開となった。後半41分、立て続けにトライを許し、1点差に迫られる。駆け付けた紺グレファンが祈るように見守る中、不屈の精神で最後まで死力を尽くす。強固な防御で相手の攻撃をしのぎ切り、正念場を乗り越えた。

崖っぷちから這い上がり、6位で終幕。4年生は後輩たちの活躍を願い、安堵（あんど）の表情を浮かべグラウンドを後にした。今季は低迷からの脱却を狙う。

◆最終結果◆

順	大学名	勝	敗	勝点	得失
①	天理大	6	1	30	153
②	京産大	5	2	25	199
③	近　大	5	2	24	59
④	関学大	5	2	24	77
⑤	立命大	3	4	15	-37
⑥	同志社	2	5	8	-197
⑦	摂南大	1	6	6	-92
⑧	関　大	1	6	5	-162

華麗
フィギュアスケート部

◆アイスダンス順位表◆

順	名前	得点
①	吉田唄菜／森田真沙也	176.21
②	田中梓沙／西山真瑚	168.92
③	佐々木彩乃／池田喜充	141.09
④	久根下未暁／ルーシェ聖夜アレック	100.19

◇吉田唄菜
（よしだ・うたな）
2003年9月6日生まれ。154㌢。木下アカデミー所属。

◇森田真沙也
（もりた・まさや）
2003年11月16日生まれ。京都両洋高校出身。165㌢。木下アカデミー所属。商学部4年。

表情豊かに滑るうたまさ

◇12月21・22日◇第93回全日本フィギュアスケート選手権大会◇於・東和薬品RACTABドーム（大阪府）

吉田・森田のうたまさカップルが日本王者に輝いた。3位で閉幕し、涙をのんだ前回大会。「（全日本選手権に向け）練習の質を上げた」（森田）。雪辱を誓い、万全の状態で大一番に臨んだ。

張り詰めた空気が漂う中、リズムダンス（RD）が始まった。ボーカルにのせてエッジの深いステップや難しいツイズルを決める。中盤、曲調が変わると雰囲気は一転。スピードに乗り、躍動感たっぷりに氷上を舞った。スタンディングオベーションを受ける好演技で、自己ベストを更新。暫定1位で最高のスタートを切った。

フリーダンス（FD）は2人でつくるプログラムにしたいという思いから『ロミオとジュリエット』を選曲。冒頭のリフトで観客をくぎ付けにした後、洗練された技でさらに魅了する。見せ場のリフトも優雅に成功。悲劇のストーリーを演じ切ったうたまさにこの日一番の大歓声が送られた。トップを守り抜き、初優勝。得点発表後はコーチ陣と抱き合い、喜びをかみ締めた。

3月末に行われた世界選手権の代表にも選出されたうたまさ。「パッションが伝わるような演技をどの舞台でもしたい」（森田）。一歩一歩進んだその先には、目標のオリンピックが待っているはずだ。

空手道部
帝京大に屈す

◆11月17日◆第68回全日本大学空手道選手権大会◆於・日本武道館（東京都）

6年ぶりに栄冠を手にすべく、闘志を燃やす同志社。しかし今年も優勝を目前で逃し、男女共に準優勝に終わった。

女子団体形部門では、洗練された突きと蹴りを駆使し、最終戦まで上り詰めた。対峙（たいじ）するのは宿敵帝京大。一挙手一投足がそろった技で完成度の高さを見せつける。だが、あと一歩及ばず無念の敗退となった。

続く男子団体形部門では、初戦から高得点をたたき出し観客を魅了。その後も息の合った演武で決勝進出を果たしたが、男子も帝京大の壁に阻まれる。惜しくも栄光には届かなかった。「悔しい部分はあるが、自分たちにできることは全部やった」（渡邉・社4）。最後まで戦い抜いた彼らに後悔はない。

「信頼関係を築き、さらに実力を上げていきたい」（北口・スポ4）。地道に練習を重ね、次こそ王座をつかみ取れ。

田中香百
（たなか・こもも）
2003年6月12日生まれ。大阪学芸高校出身。152㌢。スポーツ健康科学部4年。

形をつくる田中

◆男子団体形決勝◆

順	大学名	得点
①	帝京大	28.80
②	同志社	27.20

◆女子団体形決勝◆

順	大学名	得点
①	帝京大	28.40
②	同志社	27.30

舞台裏の英雄 NO.5
共に戦う心の支え
陸上ホッケー部女子

笑顔を見せる貞廣

◆貞廣杏純
（さだひろ・あず）
2003年4月24日生まれ。大阪府・同志社香里高校出身。150㌢。社会学部4年。

「次は選手をサポートする側へと進みたい」。最初に訪れた陸上ホッケー部の部活動体験で温かい雰囲気に惹かれ、迷わずサポートの道を選んだ。

マネジャーとしての職務を全うする傍ら、自身がプレーすることも。「やってみないと分からなかった選手の気持ちを知ることができた」。チームの人数が少ないため、試合で急きょゴールキーパーやフィールドプレーヤーとして出場するなど、臨機応変に対応。これほどまでに奔走し続ける理由は、選手たちの喜ぶ姿にある。

今年の目標は新入部員を増やし、自身が培った経験や知識を次の世代に受け継ぐことだ。「全ての業務を受け渡して、安心して引退したい」。そう語る表情には、チームを支える強い覚悟がにじむ。舞台裏で献身的に支える彼女の存在は、組織の真の力となるに違いない。

ソフトテニス部

◆11月17日◆第59回関西学生選抜インドア・ソフトテニス選手権大会◆於・向日市民体育館（京都府）

西日本インカレで準優勝した清水（商2）・長根新（スポ3）ペア。関西の地でも実力を発揮し、頂点に君臨した。

林（社卒）・大原（経卒）ペアとの同門対決となった頂上決戦。序盤から、攻撃型テニスを展開する。前半こそ苦しい立ち上がりとなるも、その後は好プレーを連発。ゲームカウント5―1の圧勝を収めた。

「自分たちが引き継ぐ意思表明ができた」（清水）。圧倒的な力を証明した関西インドア。今後もチームの先頭に立ち続け、春季リーグ戦3連覇に導く。

◆決勝戦最終結果◆

名前	スコア			名前
清水 長根新	⑤	⑦―5 ④―2 ⑤―3 ⑤―3 2―④ ④―1	1	林 大原

レイアウト　小野里　律子

バスケットボール部男子

◆11月24日～12月8日◆2024年度関西学生バスケットボール秋季トーナメント◆於・大阪経済大学大隅体育館他

新体制で再出発を図る同志社は、秋季トーナメントで準優勝を収めた。順調に駒を進め、たどり着いた大産大との決勝戦。序盤から、負けず劣らずの攻防戦が繰り広げられる。第3Q（クオーター）で途中出場の尾上（商4）が、意気盛んにシュートを狙いリードを奪った。しかし、第4Qでは疲れが目立ち攻撃が停滞。ミスを逃さず突いた大産大に逆転負けを許した。

「準優勝ではまだまだ物足りない」（山藤・文情4）。悲願のタイトル獲得に向け、奮励努力せよ。

◆秋季トーナメント◆

大学	得点
同志社	
龍谷大	
阪南大	
阪　大	
近　大	
大産大	
流通科学大	
大教大	

93
54
81
84
86
65

私たちは同志社体育会を応援しています
DOSHISHA HEROES × SPORTS ATOM

ボウリング部

固い絆で全日本駆け抜けた

男女共に実力示す アベック優勝

投球する左・熊、渡辺【切り込み写真】笑顔を見せる選手たち（撮影・沼野涼音）

熊凌汰
（くま・りょうた）
2005年1月11日生まれ。福岡県立香椎高校出身。177㌢・63㌔。スポーツ健康科学部3年。

渡辺希哩
（わたなべ・きり）
2005年8月31日生まれ。群馬県・前橋市立前橋高校出身。157㌢。スポーツ健康科学部2年。

◆12月7～9日◆第62回全日本大学ボウリング選手権大会◆於・川崎グランドボウル（神奈川県）

◆日本全国から集った猛者たちが熾烈（しれつ）な戦いを繰り広げた今大会。男子部は前回大会の屈辱を晴らすべく、女子部は3連覇を成し遂げるためこの舞台に戻ってきた。初戦で他大学に後れを取るも、関西王者の貫禄を示し首位に上り詰める。決勝戦でも洗練されたプレーを披露し、男女そろって優勝をつかみ取った。

歴史的快挙

会場を揺るがすような歓声の中で、濃紫の優勝旗が斉藤（スポ卒）と渡辺に手渡された。表彰台の真ん中で満面の笑みを浮かべる選手たち。全国の舞台で栄冠を手にした。

関西のリーグ戦では男女共に1年半、頂点を譲らなかった絶対王者だ。前回の全日本で女子は連覇を成し遂げたが、男子は沖縄国際大に敗れ、惜しくも準優勝。今大会は見事な逆転劇でアベック優勝を飾った。

一矢報いた

前回大会は最終ゲームで勝ち越され、涙の敗北を喫した男子部。「リベンジを果たしたい」（斉藤）。部全体の技術向上に励み、大会に挑んだ。

1回戦は会場のアウェーな雰囲気にのまれ、4位に終わる。だが、2回戦では斉藤が脅威の290点を記録し、主将の威厳を示す。暫定2位で迎えた準決勝。予選の疲れを感じさせない力強いプレーで、ついに1位の座を奪取した。

決勝では会場内の盛り上がりがピークに達した。第2ゲーム終了時には点差が大幅に縮まり、油断のできない状況に。それでも熊が好投球で仲間を鼓舞した。「諦めずに辛抱を続ければ、波が来る」（熊）。着実に得点を重ね、合計15257ピンを獲得。僅差で逃げ切り、1年前の雪辱を果たした。

好投で圧倒

女子部では創部初の3連覇が懸かっていた。「優勝だけを考えて投げた」（石本・スポ4）。ルーキー・渡辺を加え、日本最高峰の戦いに臨んだ。

初戦はレーンコンディションの変化に対応が遅れ、暫定4位となる。「気合を入れ直して投げた」（渡辺）。3回戦で91ピンを追い上げ、首位まで上り詰める。準決勝でも個々の力を最大限発揮し、2位との差をさらに広げた。

運命の決勝戦が始まった。「ストライクは狙わず守りに入った」（石本）。抜群の安定感でスペアを次々と獲得。合計5922ピンで王座を守り切った。

「チーム一丸となって優勝できた」（斉藤）。彼らの表情にかつてのような曇りはない。晴れやかな顔で金メダルを首にかけた。選手たちが残した大きな功績は、新たな歴史の1ページに刻まれる。「日本一」の喜びを胸に、再び圧倒的な強さを誇示せよ。【堀早槻】

◆男子団体全日本順位表◆

順	大学名	総得点
①	同志社	15257
②	名産大	15209
③	京産大B	14972

◆女子団体全日本順位表◆

順	大学名	総得点
①	同志社	5922
②	名産大	5798
③	専　大	5614

団結力示し関西V

リーグ戦では女子部が3季連続、男子部が4季連続の関西制覇という偉業を成し遂げた。

中でも圧倒的な存在感を放ったのは、女子部の優勝に大きく貢献した渡辺。1年生ながら2季続けて個人賞独占、パーフェクトゲームも達成したスーパールーキーだ。「一投一投集中しながら投げることができた。今後も狙うのはずっと優勝だと思っている」（渡辺）。獅子奮迅の活躍を見せた新星は自身のプレーを振り返り、これからの展望を語った。

アベック優勝という最高の形でリーグ戦は閉幕。斉藤は「みんながいたおかげで（関西制覇という）結果が出た」と仲間への思いを口にした。もちろん今季でも連覇を目指す。スキル向上を図り、史上最強と称される黄金時代を築き上げろ。

実りある白星

◆2月17～19日◆第56回全日本大学個人ボウリング選手権大会◆於・神戸六甲ボウル（兵庫県）

大学ボウリング界をけん引し続けた斉藤組。全日本個人でも真価を発揮した。

熊は全てのゲームで好スコアをマークし、好調な滑り出しを決める。安定した投球を続けトップを独走した。そのまま勢いを止めることなく、他と圧倒的な差をつけ勝利。表彰台の真ん中に立った。

一方の渡辺は、ライバルの猛追に焦りを隠せない。しかし、大勢の声援が後押しとなった。「観客の声で気持ちを入れ替えることができた」（渡辺）。即座に落ち着きを取り戻し、女王の座に君臨。男女そろって輝かしい成績を収めた。

トライアスロン部

◆10月20日◆2024日本学生スプリントトライアスロン選手権 兼トライアスロン・チームタイムトライアル選手権大会◆於・渡良瀬遊水地（群馬県）

女子のチームタイムトライアルに出場した平井（M卒）、尾崎（スポ4）、橋本（スポ4）。目覚ましい活躍を見せ、2位でフィニッシュした。

前半のスイムから好位置につけ、3人ほぼ同時でバイクへと移った。後方から東北大に追い上げられ、一時並走が続く。その後相手をうまくかわし、単独2位でランへ。最後の種目でも東北大と熾烈（しれつ）な争いを展開したが、レース終盤に突き放しゴールを駆け抜けた。

「楽しんでゴールができた」（橋本）。全国の舞台で爪痕を残し、有終の美を飾った。

◆チームタイムトライアル女子順位表◆

順	名前	大学名	タイム
①	関口はるか	日体大	1:10:02
②	島崎茉央	日体大	1:10:03
③	甲斐彩花	日体大	1:10:03
④	平井紬希	同志社	1:11:41
⑤	尾崎ほの花	同志社	1:11:42
⑥	橋本　華	同志社	1:11:42

ラクロス部女子

◆11月4日◆渡辺パイプpresents第34回関西学生ラクロスリーグ戦ファイナル3決勝戦◆対関学大◆於・ヤンマーフィールド長居（大阪府）

関西制覇が懸かった運命の一戦。宿敵である関学大との決勝戦が、熱気あふれる会場で幕を開けた。

同志社は開始2分に先制を許し、序盤からリードを広げられる。攻撃陣は堅い守備を突破できず、思うように攻められない。3―6と劣勢のまま試合を折り返し、その後は6点差にまで突き離された。しかし、焦ることなく落ち着いたプレーを展開。最終Q（クオーター）では果敢な攻撃で相手ゴールに迫り、3点を奪う。終盤にかけて勢いは増したが反撃の時間は足りず、6―9で敗北を喫した。

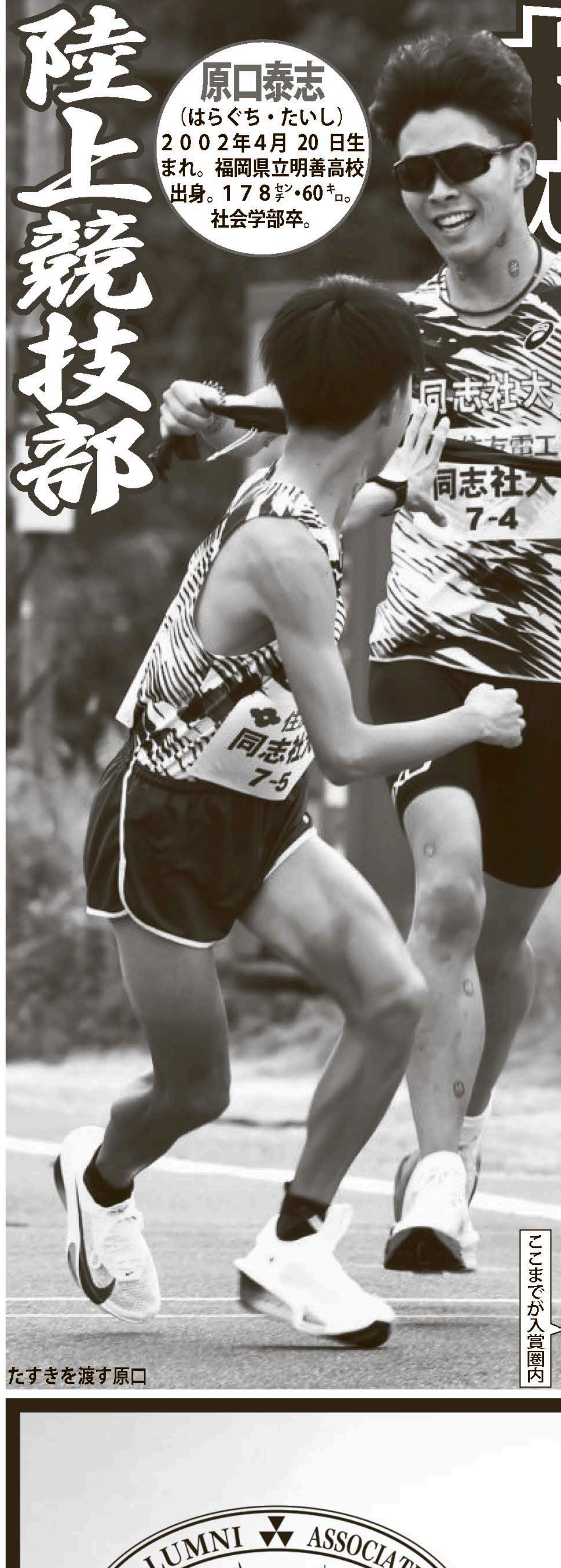
「新体制ではさらに素晴らしい同志社ラクロスを築き上げてほしい」（篠原・商卒）。篠原組は次世代へ夢を託した。今季こそ関西王座を奪還してみせる。

◆試合結果◆

同志社	6	1-4 2-2 0-3 3-0	9	関学大

陸上競技部

想いを襷へ



たすきを渡す原口

原口泰志
（はらぐち・たいし）
2002年4月20日生まれ。福岡県立明善高校出身。178㌢・60㌔。社会学部卒。

◆11月16日◆第86回関西学生対校駅伝競走大会◆於・丹後地域コース（京都府）

6位入賞を目指し、丹後路に挑んだ同志社。前半から良い流れでレースを進め、目標を達成した。

序盤から京産大が先頭を引っ張る。1区の壬生（商卒）は集団の前方で飛び出すタイミングをうかがっていた。しかしラスト1㌔、「余裕を持てなかった」（壬生）と思うように体が動かず、8位で2区につなぐ。たすきを受け取った南部（理工3）は後方から追う展開の中、エースとして順位を4つ押し上げた。

中間区間を走った選手も個人タイム上位でまとめる安定した走りを見せる。前とわずか1秒差の7位でアンカー勝負へ。チームの命運を握った島田（スポ卒）は「何としてでも前を抜こうと思っていた」（島田）と前半から快調な走りで龍谷大を置き去りにし、6位でフィニッシュした。

振り返れば困難の連続だった1年間。前年7位の悔しさを忘れることなく最後までたすきをつなぎ、笑顔でレースを締めくくった。

◆第86回関西学生対校駅伝競走大会順位表◆

順	大学名	総合記録
①	京産大	3:47:52
②	関学大	3:50:15
③	立命大	3:50:53
④	大経大	3:51:22
⑤	関　大	3:52:08
⑥	同志社	3:57:46
⑦	龍谷大	3:57:53
⑧	神戸大	3:59:35

ここまでが入賞圏内

洋弓部男子

髙井 神業

行射を終えた髙井

◆髙井将平
（たかい・しょうへい）
2003年12月2日生まれ。愛知産業大学三河高校出身。168㌢・70㌔。スポーツ健康科学部4年。

◆12月21・22日◆第28回関西学生アーチェリーインドア選手権大会◆於・近畿大学東大阪キャンパス記念会館

「過去1番成績のいい年にできた」。主将を務める高井が猛者たちを退け、関西1位に君臨した。予選は578点をマークし、4位で通過。決勝は1セット3射のマッチ戦が行われた。初戦は立て続けにセットポイントを奪うも、その後は手元が狂い2セットを献上。リードを詰められ後がない状況の中、冷静に29点を射止め相手を下す。勢いそのままセミファイナルまで突破し、ゴールドメダルマッチに進出した。

高井の行射は卓越していた。観客が固唾（かたず）をのみ見守る中、矢は次々と中心へ吸い込まれる。第1セット、第2セットを完璧なエイミングで30金を達成した。セットポイント4―0で迎えた第3セット。緊迫した雰囲気を打ち破るように29点を射抜き、栄冠を手にした。

驚異的な所業でたどり着いた表彰台の頂点。ひたむきに練習した成果を遺憾なく発揮した。次に高井組が狙いを定めるのは、春季リーグ戦だ。「今年は強い選手が集まっているので優勝できる」。チーム一丸となり、同志社を栄光に導く矢を放て。

◆最終結果◆

順	名前	大学名
①	髙井将平	同志社
②	原口大弥	近　大
③	鷲津大翔	同志社
④	白丸凌太朗	近　大
⑤	宮田楽都	近　大

レイアウト　村川　愛実

同志社校友会
Doshisha Alumni Association
卒業生と繋がる
学生と繋がる
学生を支える
同志社校友会事務局　MAIL：info00@doshisha-alumni.org

僕たち・私たち 大学から競技始めました

本号では大学で競技を始め、成長を遂げた選手たちに迫った。未経験から競技の世界に飛び込んだ彼らはどのように壁を乗り越え、今の自分を築いたのか。学生生活の最後に新たな挑戦を考える新入生に向け、先輩たちの経験を通じて魅力と可能性を伝える。

未知の世界に飛び込む

Boys Lacrosse

山本翔大
（やまもと・しょうた）
2004年11月4日生まれ。京都府・同志社高校出身。ポジションはＬＤＦ。178センチ・78キロ。経済学部3年。

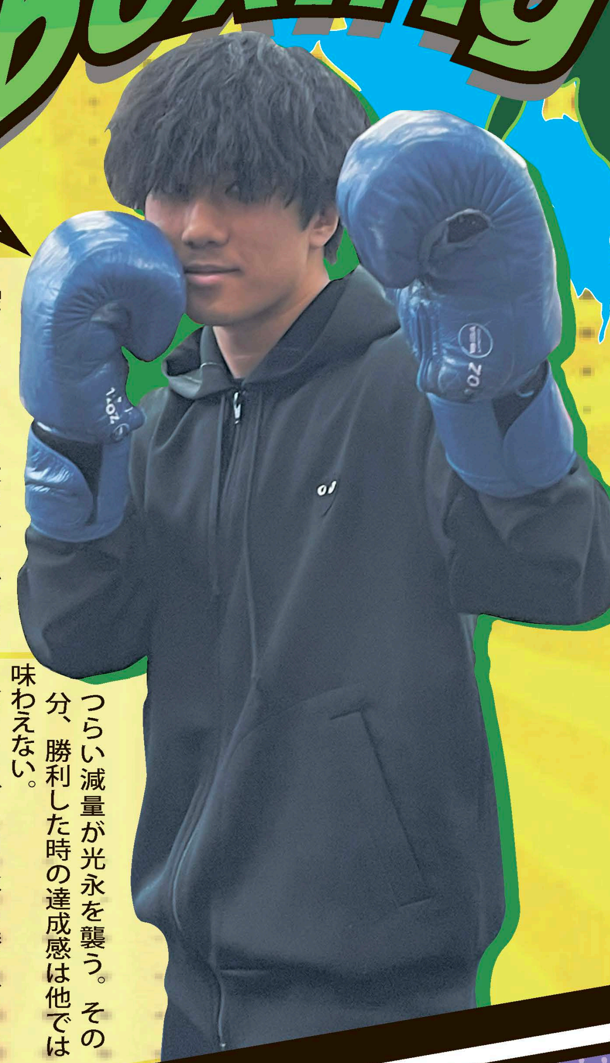
「全員、スタートが同じところが魅力」。山本を含む選手のほとんどが未経験でラクロスに挑戦する。これまでのスポーツ経験を生かせることも魅力の一つだ。

最初は思うように動けず、もどかしさを感じることも。しかし、ひたむきにラクロスと向き合いボールを自在に操れるようになると、プレーの楽しさに気づけた。「ディフェンスで相手を圧倒できたらうれしい」。ヘルメットなどの防具を着けて繰り広げられる激しいフィジカルコンタクトも、このスポーツならではの醍醐味（だいごみ）。鍛錬の成果が花開き、１年時のあかつきカップで全国優勝を成し遂げた。「努力し続けて良かった」。新境地で奮闘した１年間をさらなる成長の礎とした。

部の特徴は学生主体であること。常に自分で考える癖が身に付き、その環境が人間的な成長も後押しする。

「４年間厳しい環境に身を置くことはかっこいい」。さあ、あなたもクロスを片手に戦友とフィールドに立とう。青春の鼓動が高鳴るはずだ。

Boxing 魂を拳にのせて



光永巧
（みつなが・こう）
2003年10月28日生まれ。埼玉栄高校出身。階級はライト級。169センチ・60キロ。法学部3年。

「新しいことを大学から始めよう」。光永は高校まで楕円形のボールを必死に追いかけた元フットボーラー。最初は同志社に数多く存在する武道系の部活に入ろうと考えていた。しかしボクシング部のインスタグラムが目に留まり、先輩たちの熱心に取り組む姿に惹かれ体験会に参加。部全体の雰囲気の良さをきっかけに入部を決意した。闘志をむき出して容赦なく殴り合う競技のため、恐怖やつらい減量が光永を襲う。その分、勝利した時の達成感は他では味わえない。

ボクシングは個人での勝負ではあるが、リーグ戦ではチームで競う楽しさもある。試合に出られなくてもミットを持ち、他の選手をサポート。部で一丸となって戦う。「サポートしてきた選手が試合に勝ったらすごく楽しいし、活躍したら自分もうれしい」。切磋琢磨（せっさたくま）してきた仲間の勝利を共に喜び合えると語った。

「学生生活で目標を持って何かに向かっていくことは、就職活動や今後の人生においてとても大切なことだと思う」。ボクシングと出会ってはや2年。燃えたぎる戦意を胸に、光永はこれからもリングへと向かう。

満天の空を羽ばたく

Air Wingggggg

内田結寿菜（うちだ・ゆずな）
2004年8月11日生まれ。神奈川学園高校出身。156センチ。政策学部3年。

美しい青空が内田を航空部へといざなった。「空を飛ぶロマンがある」。限られた時間を有意義に過ごすべく、新天地で奮闘を続けている。

グライダーを操るためには事前準備が欠かせない。機体の仕組みや飛行の原理を学び、資格取得にも努めた。また、安全性確保のために日頃から小まめな整備点検を行っている。多くの時間をかけ、ついに訪れた飛行の瞬間。窓の外から見える景色が彼女をとりこにした。部員全員が大学から競技を始めるため、努力次第で誰にでも飛躍のチャンスが与えられる。特に練習を重ねたのは「手足一致の行動」。自然を相手に戦う中で、風の強さや向きを考慮しなければならない。機体と自分の動きを合わせることで、どのような環境下でも安定した飛行が可能となった。

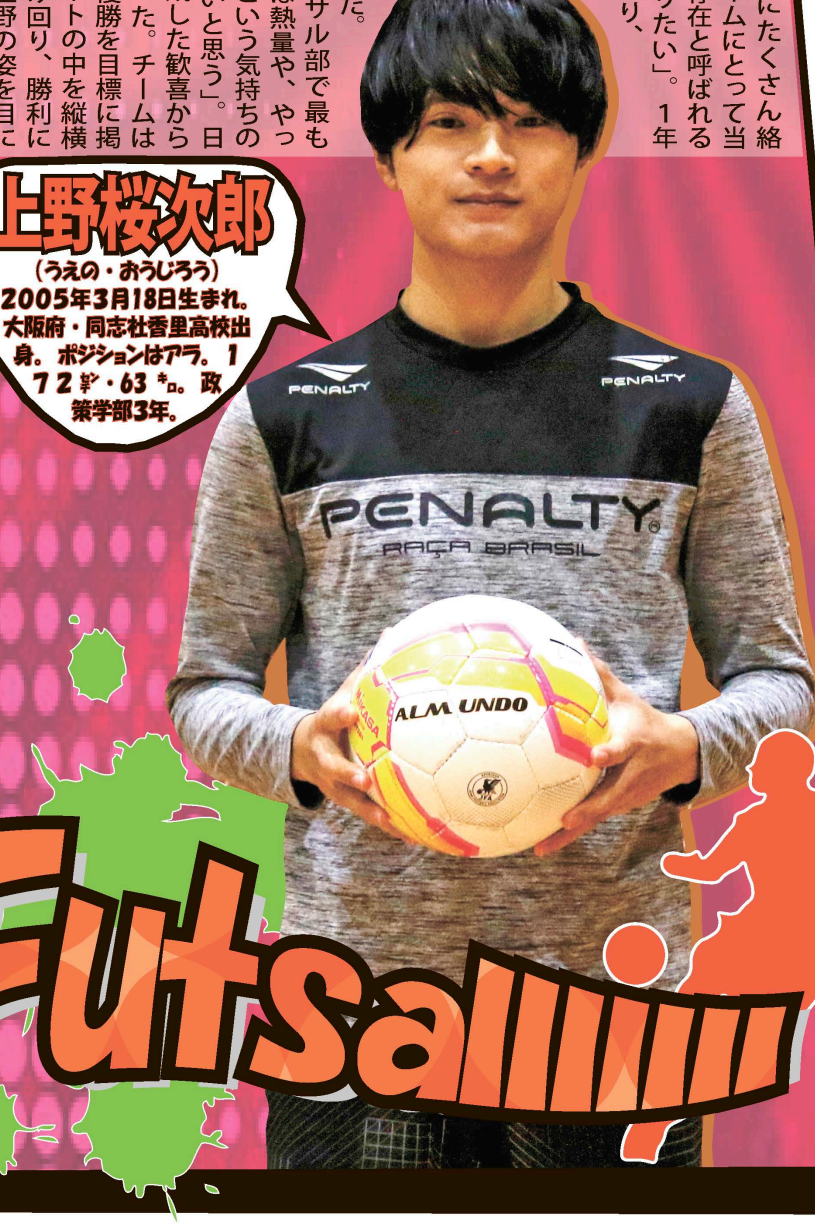
「飛行機を飛ばすためには大勢の人の協力が必要」。週に一度の学科の時間や、定期的に開催される部内合宿で絆を深めている。個人の身体能力を求めるのではなく、チームワークを構築することが航空部のモットーだ。最高の仲間と上昇気流に乗り、大空をかける。

絶対的な存在へ

高校時代にはサッカー部に所属し、中盤でのキープレイヤーとして攻撃をけん引してきた。入学後は心機一転、フットサル部への入部を決心する。「コートが小さく、プレーする人数が5人と少ないので、一人一人の努力で結果が変わりやすいところに惹かれた」。フィジカル面で激しい戦いが展開される新たな環境に身を置いた。

入部直後は下のカテゴリーでのプレーとなるも2年時から頭角を現し、Ａチーム入りを果たす。しかし、厚い選手層を前に昨シーズンは出場機会に恵まれない日々が続いた。「今までよりも試合や得点にたくさん絡んで、チームにとって当たり前の存在と呼ばれるようになりたい」。１年間を振り返り、思い描くような活躍ができなかったことに悔しさをにじませた。

「フットサル部で最も大事なのは熱量や、やってやろうという気持ちの面が大きいと思う」。日本一を達成した歓喜から10年がたった。チームはインカレ優勝を目標に掲げる。コートの中を縦横無尽に駆け回り、勝利に貢献する上野の姿を目に焼き付けろ。



上野桜次郎
（うえの・おうじろう）
2005年3月18日生まれ。大阪府・同志社香里高校出身。ポジションはアラ。172センチ・63キロ。政策学部3年。

Futsallllll

新たな道を走る

車好きの父親の元で育てられた西尾。共に訪れたサーキット場で衝撃的な光景を目にした。「エンジン音やスピード感に圧倒された」。忘れられないその体験がきっかけとなり、大学での入部を決意する。新たな挑戦へと一歩を踏み出した。

免許取得が必須条件となっている自動車競技は、大半の部員が大学生から競技を始める。「ほとんどみんなが初心者なので、同じ位置から励まし合って高め合うことができる」。初めは技術に不安を抱えていた西尾だったが、仲間たちとしのぎを削る中で着実に成長を遂げた。

大会出場を懸け、厳しい部内競争を繰り広げる自動車部。「部内でトップ３に選ばれた選手しか試合に出場することができない」と過酷な条件が課せられている。そのため、整備と運転技術の両面でのスキル向上が必要不可欠だ。努力を重ね、技術を習得した時に感じる迫力やスピード感は計り知れない。「自分の思い通りに走ることができたとき、達成感を味わうことができてとても楽しい」。今後も頼れる相棒と一緒に、アクセル全開で駆け抜ける。

西尾崇良
（にしお・たから）
2004年7月8日生まれ。兵庫県立東播磨高校出身。162センチ・55キロ。グローバル地域文化学部3年。

Automobile

レイアウト　三宅　希和

体操競技部

こんなに楽しいスポーツがあっていいのか
新しい技ができる達成感を一緒に感じよう！
初心者・マネージャーも大募集中！
活動日：火〜木・土・日　連絡先：doshishataisou@gmail.com

柔道部

部員募集中！

¥7,000から
広告承ります

〒602-8580
京都市上京区上立売新町西入ル西大路町 61-1
同志社スポーツアトム編集局

ヘッドライン
過去紙面掲載

スマホ対応

同志社スポーツアトム編集局
official web site

ホームページはこちら

follow us on Instagram
公式アカウントはこちら！！
@atom_doshisha

ビラアカウントもございます
@atom_doshisha_

アメリカンフットボール部

役職：選手（男子のみ）・スタッフ（男女問わず）
活動日：春秋シーズン中→週１日
春秋トレーニング期間→週２日
日本一を目指す

YOUNG RESORT
株式会社 ヤングリゾート
＃大会遠征 ＃サークル合宿 ＃アパレル
＃お揃いウェア ＃ArcheryTag ＃キンボール
＃ヤンフェス ＃就職活動支援　＃大学生
合宿・ゼミ旅行など是非お問い合わせください！

同志社大学の皆さま
ご入学おめでとうございます。

日本初！
部活（サークル）支援プラットフォーム
がスタートします！

今すぐ
エスキャリ登録
しよう！

部活向け　学生向け

SCareer
スポーツ学生とキャリアをつなぐ

フェンシング部

目標：インカレ優勝
先輩後輩関係なく仲の良さが魅力
１部所属

居合道部

日本一の
道場がここに

一緒に刀を振ってくれる
仲間募集

▼インスタはこちら

女子バスケットボール部

役職：選手・マネージャー
活動日：火水金→17時〜20時
土日→10時〜13時
活動場所：同志社女子大学東館
連絡先：dojo.kw@gmail.com
▲DM お待ちしてます！

サッカー部
一生ものの仲間と最高の青春を過ごそう

▼女子はこちら！！！
▼男子はこちら！！！

同志社から一番近い
京田辺校地
教習所です！
※昭文社京都府地図より

秋から新車になりました！

オンライン学科実施中!!
自宅でスマートフォンで
受講できます

山城田辺自動車学校
〒610-0322京都府京田辺市普賢寺中島4-9
TEL 0774-63-6600

次回予告　5月下旬発行予定！
硬式野球号
ぜひお手に取ってご覧ください！

同志社スポーツユニオン

体育会５１クラブのOB・OGから組織されています
同志社スポーツユニオンは同志社アスリートを支援、応援致します！

http://www.doshisha-su.com/
◎ウェブサイトを通じて同志社スポーツを応援しましょう！
◎新年度　ウェブサポーター　募集中！

お申込み・お問い合わせ
〒610-0394
京田辺市多々羅都谷1-3
同志社スポーツユニオン事務局
TEL：0774-65-7418　　FAX：0774-65-7416
E-Mail：jt-1spor@mail.doshisha.ac.jp

陸上競技部
Track and Field Club

日本拳法部

新入部員・マネージャー募集中！

活動日
毎週
火・木・土

活動場所
京田辺キャンパス
真誠館

Instagram @doshisha_nipponkempo

軟式野球部

共に本気で日本一へ

２０２４年
関西六大学軟式野球連盟
春季リーグ戦
優勝

詳しくはインスタをチェック！
@doshisha_nanshiki

アーチェリー部

男女共に選手募集中！初心者も大歓迎！

welcome to DOSHISHA

同志社スポーツアトム編集局編集長
新入生歓迎の言葉

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。今年度、編集長を務めております矢部彩香と申します。アトムでは各部活の試合や大会に足を運んでいます。主に取材、撮影、紙面発行を通して、体育会の魅力を伝える活動を行っています。情報は X、Instagram 等の SNS で配信しております。また、紙面は各校地で配布しています。ぜひ、ご一読ください。

選手の「勇紫」を一緒に応援しませんか？共に同志社スポーツを盛り上げていきましょう！

広告主様募集中!!

お問い合わせは連絡フォームまで
▶http://doshisha-atom.net/promotion/

〈２０２５年度　同志社スポーツアトム編集局幹部紹介〉

同志社スポーツアトム編集局の今年度幹部が決まりましたので、紙面をもって報告させていただきます。

編集長
矢部彩香（文３）

副編集長
西川有人（経３）

主務
近藤真子（政策３）

会計
伊藤愛梨（法３）

営業
中嶋理博（経３）

総務
小野里律子（文３）
シンウンス（ＧＣ３）

渉外
中務桜々子（商３）

整理
河村柚希（経３）
木田恋菜（商３）

校閲
金井莉子（法３）
黒田周良（商３）
久岡悠斗（社３）

〈体育会本部新役員紹介〉

委員長
北原礼菜（政策４・ボート部）

副委員長
淺田光（経４・軟式野球部）
北山心響（経４・フェンシング部）

総務部長
田籠晋太郎（スポ４・バスケットボール部）

会計部長
小西勇那（文４・合気道部）

広報部長
新藤絢世（政策４・卓球部）

渉外部長
岡本好未（スポ４・射撃部）

定期購読受付中!!

お申込みはこちらから▶▶
https://doshisha-atom.net/subscribe/
年間購読料　￥2,000
年６回発行！
ご自宅まで配送いたします！

レイアウト　中嶋　理博

心に情熱たぎらせ叶うべき夢の先へ

同志社アトム

勇往邁進

東山玲士

経験武器に球界席巻せよ

©ORIX Buffaloes

Bs
息の長い選手
2025.1.15

色紙を掲げる東山【切り込み写真】左・雄たけびを上げる、右・力投する

HIGASHIYAMA
45

♦青地斗舞（あおち・とうま）２０００年５月４日生まれ。大阪桐蔭高校→同志社大学硬式野球部ＯＢ。スポーツ健康科学部卒。

東山選手ってこんな人！

３年前、春秋にわたり激しい優勝争いを繰り広げた同志社。当時強力打線の中核としてチームを先導し続けたのが、主将を務めていた青地氏だ。同期のプロ入りを受け、共に戦った学生時代を振り返った。

リリーフ陣の柱としてマウンドに立ち続けた東山選手の投球を、「リズムよくストライクゾーンで勝負してくれるので守りやすかった」と回顧。一方で、グラウンドを出るとマイペースな一面も見られたと思い返す。昨年10月のドラフト会議時は中継を視聴し、指名されるとＬＩＮＥグループで一番に祝福のメッセージを送信。チームメートと歓喜した。

「リリーフとして１年目から勝ちパターンで投げてほしい」。最高峰の舞台での戦いが待ち受ける戦友に向け、最大限のエールを送った。

＼自然体で天然なれいじをテレビで見たい！／

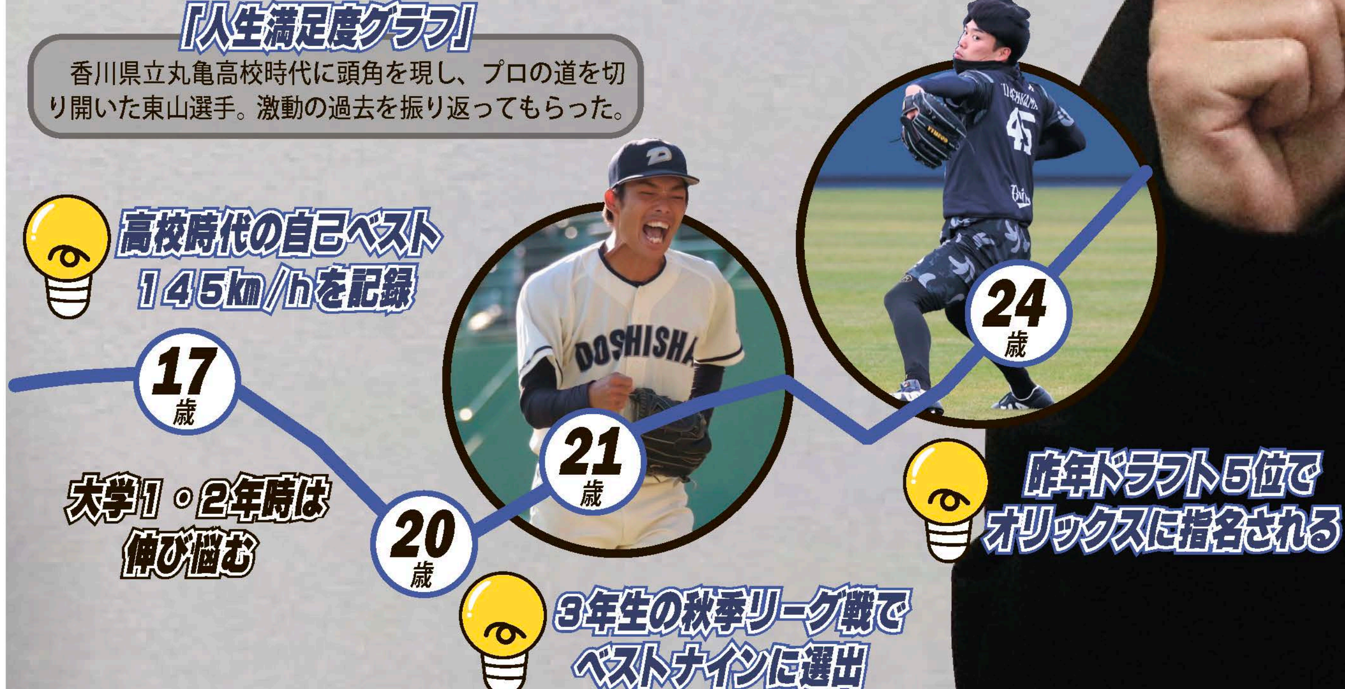
◆東山玲士

（ひがしやま・れいじ）

２０００年５月５日生まれ。同志社大学硬式野球部ＯＢ。心理学部卒。２０２３年からＥＮＥＯＳ野球部でプレー。ポジションはピッチャー。右投げ右打ち。１８０センチ・83キロ。最速１５１キロの直球と変化球が武器。２０２４年ドラフト５位でオリックス・バファローズに入団。

「人生満足度グラフ」

香川県立丸亀高校時代に頭角を現し、プロの道を切り開いた東山選手。激動の過去を振り返ってもらった。



憧れの先輩を追いかける

東山選手とプレーした現役選手にインタビューを行った。

橋本裕　誇りに思える先輩です。トレーニングをしている時やピッチングをしている時、アップしている時でも気さくに声をかけてくださいました。また、自分の投げ方についても教えていただきましたし、優しくしてもらいました。

財原　1年生の時に同じ環境でプレーしていた先輩が、プロ野球選手になるということは誇りに思います。偉大な先輩だなと感じました。明るい人でコミュニケーションを下級生にも取ってくれる、優しい人というイメージがあります。トレーニングや基礎固めという点で見本にして、勉強させてもらっていました。

肩を組む左・橋本裕（商4）、財原（スポ4）

PLAY BACK

化ける
聖地で東山
自慢のストレートで立命打線斬り
光り輝くエースの原石

▲2020.10.21 発行

チームを支えた２人の右腕
奮闘
真野
東山
投手陣の中軸となり

▲2021.06.07 発行

8回途中4安打12奪三振無失点
初勝利
東山
初回の得点守り切って
「素直に嬉しかった」

▲2021.10.04 発行

好投でチームの躍進を導け
投手魂
東山
真野
今秋へ成長誓う

▲2022.06.15 発行

好投でチームを牽引せよ
頼れる剛腕
東山
小倉
圧倒的なチーム防御率に貢献

▲2022.10.19 発行

ドラフト5位

◆特別インタビュー◆1月15日◆2024年ドラフト5位でオリックス・バファローズに入団した東山玲士選手。大学時代ではリリーフの柱として優勝争いに貢献する。その後は社会人野球へと進み大舞台で活躍、さらにその名を知らしめた。プロ入りに至るまでには、血のにじむような努力や代え難い経験、また大学時代に出会った恩師の存在がある。新たなステージへと踏み出す右腕が、今を生きる同志社生に向けて思いを語った。

新天地歩む

—プロの環境・施設について

大学の時は体育ハウスに住んでいて、その後の2年間はENEOSで寮だったので、あまり変わらずにリラックスできている。

—仲良くなった選手

同期は基本みんな後輩で、全員といい感じで話せている。山中（稜真＝ドラフト4位）だけが同級生。三菱重工East出身で都市対抗予選が同じ地区だったので、ライバルとしてずっと仲良く話している。

—オリックス・バファローズというチームについて

おととしまで3連覇しているすごく強いチーム。ピッチャーも能力の高い選手がいっぱいそろっていて、しっかり練習する雰囲気が流れている感じがある。

大学4年間

—大学時代を振り返って

今思えば力不足だった。もっとできたんじゃないかなと思う。

—3年秋にはベストナインを獲得された

あの時（ベストナインを）取れていなかったら今、僕はここにいない。もしかしたら野球を続けていないかもしれない。本当に取れて良かった。

—心理学部で学んだ知識が生かされていると感じる瞬間

「緊張緩和」に興味があった。心理学部に入ってこれだけは学んでおこうと思い、きちんと聞くようにしていた。今も緊張を緩和させるために呼吸法を意識していて、そういうところに生きている。

—大学4年間で成長できた部分

チームとして自分が何をしないといけないかという役割をちゃんと見つけられるようになった。部員160人と多い中でどうすれば試合に出られるのかというのを模索しながらできた。3、4年生の時に花野監督（硬式野球部前監督）に社会人野球の厳しさや上のレベルに行くためにはどうすれば良いかを教えていただいた。そのおかげもあり今、野球ができている。

次の目的地

—社会人での2年間

最初入った時はやはり厳しいというか、練習もハードだった。だけど、練習に取り組む姿勢とかアップから全てにこだわっていた。勝つために手を抜かない、妥協しないことを大事にしていた。本当に1球の大事さ、勝つしんどさ、9回の守備の大変さを学んだ。

—ENEOSでは2年前に、度会隆輝選手（横浜DeNAベイスターズ）がドラフト1位指名された

「これがドラフト1位か」といううらやましい気持ちも多少あった。でも、それ以上にやっぱり負けたくない、来年は絶対にプロに行ってやるんだという強い気持ちになった。自分もその舞台で活躍したいなと、強い刺激をもらった。

—対戦してみたい選手

リーグは違うが小林誠司選手（読売ジャイアンツ）がどうしても。大学の先輩なので、一度は対戦してみたい。

—プロで目標とする姿

結果の部分でいうと、やっぱり山本由伸投手（ロサンゼルス・ドジャース）のような、素晴らしい結果を残してチームの優勝に貢献するのがベスト。だけど、平野（佳寿）投手（オリックス・バファローズ）みたいに少しでも長く、最前線で息の長い選手になりたい。

—後輩へメッセージ

目標を高く持ち続けて、達成するために日々努力し続けてほしい。

【取材・構成＝黒田周良・中務桜々子】

記事の全文はこちらから↓

レイアウト　近藤　真子

吹奏楽部
指導部
チアリーダー部
↓Instagramをチェック！↓
アトムフェスティバル（12月）
本気になれる場所
同志社大學應援團

活動風景公開中！
Instagram
@sports_atom_2025
新歓ＬＩＮＥ参加はこちらから！
同志社アトム
～同志社大学体育会を共に盛り上げませんか？～
新入部員大募集中!!